

カラネ一座の旅芝居

天花 神咲が 沼

絵とタイトル文字／ナカムラジン

2025年 **12月6日(土)** 開演 **13:30** (開場13:10 上演時間75分)

会場／東京おもちゃ美術館 (四谷ひろば講堂) 裏面にアクセスあり

◆前売/2,500円 当日/2,800円(4歳以上有料・自由席) 東京おもちゃ美術館入館料含む

◆お申込み・お問合せ 劇団風の子

TEL.042-652-1001

Eメール tokyo@kazenoko.co.jp



劇団風の子観劇
お申込みフォーム



東京おもちゃ美術館
入館予約サイト

登場人物



いちざ ぢちよう
カラス一座の座長
ちよ
千代ばあちゃん
かねだ たく
金田 拓



カラス
テング
いべ なおと
井部 直人



カラス
カッパ
たもつ かな
保 可南



カラス
キツネ
なら ゆか
奈良 悠加



カラス
なまずひげたらう
鯨 髭太郎
ふしぬき てつや
伏見 哲也

あらすじ

カラス一座が演じる、今を生きる妖怪たちの命と自然をつなぐ物語。

ときは現代、ところは天神森の天神沼。力がない、飛べない、化けられない、妖怪とは名ばかりの子どものカッパとテングとキツネが住んでいる。かつてこの沼にはハスの花が咲きほこっていたが、今では水が枯れかけている。

ある時、天神森にテーマパークを作ろうとする怪しげな社長がやって来て、この地に昔から住む千代ばあちゃんを言いくるめ強引に測量を始めてしまう。実はこの社長こと鯨髭太郎は、人間に恨みを募らせ仕返ししようとしている妖怪で、この沼の水が少なくなっているのもそのせいだったのだ。

三匹の妖怪たちは、天神森を守るため自分たちの夢のために、勇気をふり絞り奮闘する。果たして妖怪たちは、この森を守り、再び天神沼にハスの花を咲かせる事が出来るのか。



スタッフ

作・脚本／金田拓・堀切リエ
演出／中島研
音楽・効果／曲尾友克
振付／桐山良子
衣裳／小峯三奈
美術／浅野井優子・中島研
劇団風の子美術部
制作／浅野井優子
田中美和・吉野由起



ご来場にあたってのお願い

- ★受付での手指の消毒にご協力ください。
- ★体調が悪い場合はご来場をお控えください。
- ★暖かい格好でお越しください。

東京おもちゃ美術館について

世界のさまざまなおもちゃであそんだり、身近な素材をつかった工作をすることができます。おもちゃを通して人と出会い、様々な体験をしてみませんか。

劇団風の子について

1950年に東京の世田谷で生まれ、今年で75年経ちました。「子どものいるとこ、どこへでも」と日本全国の、幼稚園、保育園、小学校、子ども劇場おやこ劇場などで公演を続けています。



〒192-0152 東京都八王子市美山町1320-1
TEL.042-652-1001 FAX.042-652-1013
E-mail tokyo@kazenoko.co.jp
ホームページ <https://www.kazenoko.co.jp>



風の子HP



会場：東京おもちゃ美術館
(四谷ひろば 講堂：東京都新宿区四谷4丁目20)

東京メトロ丸の内線「四谷三丁目」駅
2番出口より徒歩7分
都営新宿線 曙橋駅出口A1より徒歩8分